

アンチエイジング医療の未来像

美容形成医VS代謝内分 泌内科医 大いに語る

若返りの医療が一躍脚光を浴びたのは、1990年ロドマン・スタディー(1)に起因する。肉体的あるいはそれに付随した精神的な老化抑制が可能なることを臨床研究に基づいたエビデンスとして立証したものだ。以降、その発信源となるアメリカA4Mから次々とアンチエイジング医療、療法の治療メソッドが世界に飛び火して、研究者や臨床医が「アンチエイジング診療」を実践していったことは記憶に新しい。こうした医療の新たな潮流は美容医療の概念をも変え、「コンプレックスを治す」美容整形から「若返り」の美容医療へと方向転換させていく。そしてアンチエイジング医療が次なるステージに向かうためには、美容医療とアンチエイジング内科が医学領域の垣根をこえてさらに強固に連携し、「外観」に加え「身体の中」から若々しく、美しく、元気にさせる医療を提供していくことが求められる。言い換えれば、次なる時代の医療を担う診療科目こそ美容外科とアンチエイジング(予防)内科で、そのアドバンテージは高い。アンチエイジング医療の未来像、そのヒントを池田 欣生医師と青木 晃医師の対談から見出していきたい。

次代担う診療科目こそ美容医療とアンチエイジング内科

池田 田日々の診療において美容外科・美容皮膚科・マン・スタディー(Daniel・Rudman MD, New England Journal)が発表され、成長ホルモンによる若返りの実験がまさに画期的でした。この実験で成長ホルモンを注射することで体脂肪やコレステロール減少、筋力増加などの若返り効果が実証されたから、私自身、以前は成長ホルモン分泌量が増加すると言われている加圧トレーニング・アンチエイジング・美容医療について行っていたのですが、青木

J H M 対談

(青木医師)

治療効果の「時間軸」

数時間の美容外科、1

か月の美容皮膚科に比べ

美容内科は数か月

青木 日本でも様々な最先端の美容医療が導入さ

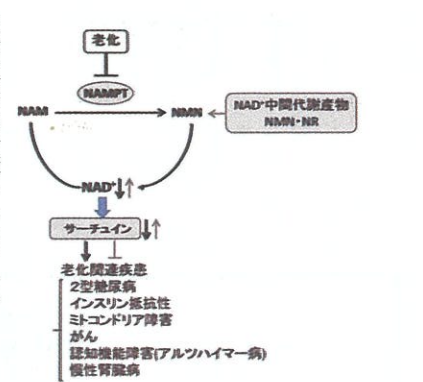


青木 晃医師

れは残念ながらまだ導入が進んでいないのが現状です。その理由には「時間軸」が関係しているのではないかと感じています。池田 「時間軸」とは何か、青木 イメージしていただくと、美容外科なら手術によって数時間で患者の身体に変化を与えることができます。また美容皮膚科なら光治療やレーザー注入などによって、数日から1か月ほどで患者に変化を与えることができるでしょう。池田 私は青木先生から直接色々教えて頂く機会があったため美容内科の重要性を実感することができました。自分では体感があっても患者さんにも知ってほしいと思い7年前から当院では青木先生による美容内科診療を行っています。それまでは自己流でダイエットを行っていた患者さんが、青木先生の診療を受けることで正しい糖質制限法等を実践していく様子などを見ていくと、やはり外見的な美容医療とあわせて内面的なアプローチは必要なのだと感じています。今後、美容クリニック



池田 欣生医師



けるだけでレスベラトロールが有名ですが、アンチエイジング効果があることですが、NAD+やニコチンアミド腺嘌呤核糖核苷酸(Nicotinamide Adenine Dinucleotide)には具体的にはどんな働きがあるのでしょうか。青木 サーチン遺伝子を刺激する物質としてレスベラトロールに注目されたことが、ここ数年の研究によってレスベラトロールは間接的な関与しかなく、よりダイレクトに刺激を与えることができる物質がNAD+であると判明しました。NAD+は身体の様々な老化現象や加齢ダメージを改善する物質で、1から7まであるサーチン遺伝子

(青木)

「夢の若返り薬」NAD+の創薬が、美容内科への認識を大きく変えていく!?

池田 青木先生のように、生活習慣病の対策として日々の食生活や運動量、睡眠の質をウェアラブル活動量計で管理すると同時に、専任アドバイザーがその結果にコーチングを行うプログラムとは、確かに興味深いプログラムです。単純に計測をつ

(池田)

「見た目」だけではなく「身体の中」からアンチエイジングするところが「本当の美しさ」

池田 直接的に細胞を修復することができるNAD+は、今後の美容内科分野の発展において重要なアクターになりそうです。即効性や体感といった面から、美容外科と美容皮膚科ほど一般化していませんが、美容内科によるアンチエイジング治療ですが、この機会にその効果が注目

キーワード

- (1)ロドマン・スタディー Daniel Rudman, MD New England J Med 1990 ;323:1-6. Effects of Human Growth Hormone in Menover 60 Years Old
- (2)メチテニス クリニックから患者に勧めるウェアラブル活動量計で生活習慣病の対策として日々の食生活や運動量、睡眠の質を管理する。医師やコ
- (3)NAD+ ワシントン大の今井伸一郎教授らがNMNの存在と効果を見出し、7種類あるすべて

の長寿遺伝子サーチン遺伝子作用を若返りや抗老化作用をもつと報告された。そしてこのNMNは脳液を通過して視床下部のNAD+合成を賦活化することで、それがサーチン遺伝子を活性化することが明らかになった。「夢の若返り薬」としてNAD+そのものの創薬の試みが始まっている。